

保守性を高めるアプリケーション設計の勘所と留意点 (4120084)

本セミナーは、講師が実務体験から培った保守性を高めるアプリケーション設計のノウハウを集大成してお話いただきます。アプリケーションの構造と影響・テスト容易性・プロジェクト体制の視点から保守性を高める工夫例を講義します。

| | |
|----------|---|
| 開催日時 | 2020年9月3日(木) 10:00-17:00 |
| カテゴリー | IS導入(構築)・IS保守 専門スキル |
| 講師 | 天羽正道 氏 (フリーランスITアーキテクト) 元 日本アイ・ビー・エム株式会社 エクゼクティブアーキテクト。 チーフアーキテクトとして様々な環境でのビジネスアプリケーションの開発をリード、構想を支援。 |
| 参加費 | J U A S 会員/ITC : 33,800円 一般 : 43,000円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】 |
| 会場 | 一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (日本橋堀留町2丁目ビル2階) |
| 対象 | 保守性の向上に関心のある方 受講前提条件 : アプリケーション開発の経験を持っていること 中級 |
| 開催形式 | 講義、グループ演習 |
| 定員 | 15名 |
| 取得ポイント | ※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント) |
| ITCA認定時間 | 6 |

主な内容

- 保守性の価値
 - 企業がITに求めるもの
 - 保守性の重要性
- 保守性とは何か
 - 保守性向上の阻害要因
 - 構造
 - テスト
 - その他の施策
- 良い構造、悪い構造
 - 導出のタイミング
 - 引数のスコープ
 - 分岐のタイミング
 - 適切な共通モジュール
 - 階層化
 - 検査のタイミング
 - モジュール分割の視点
 - データの正規化・非正規化
 - エンティティ - 分割の視点
 - エンティティ - 属性の付与の視点
 - 主キーの選択
- 構造実現の手法
 - データモデリング
 - アプリケーションモデリング
 - 非機能要件
 - 性能対応

- ・コードの改善
- ・リファクタリング
- ・最適影響法

5 テスト容易性

- ・テスト容易性
- ・環境関連
- ・アプリケーション資源
- ・データとアプリの準備
- ・アプリの実行条件
- ・テストの再利用
- ・問題分析
- ・機械化・自動化など

6 保守性とプロジェクト

- ・保守性についての役割
 - －プロジェクトオーナー
 - －利用者
 - －アーキテクト
 - －開発者
 - －インフラ担当
 - －プロジェクトマネージャー
- ・要求の扱い
- ・アーキテクチャー
- ・成果物と点検
- ・環境
- ・エンジニアリング

まとめ